



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.
のびゆく力、未来へ

会社説明会および 2012年11月期 第2四半期決算説明会資料

2012年7月6日



目次

I.	2012年11月期第2四半期連結決算	-----	p.3
II.	2012年11月期連結業績予想	-----	p.9
III.	成長戦略・中期事業計画	-----	p.17

3

I. 2012年11月期第2四半期連結決算

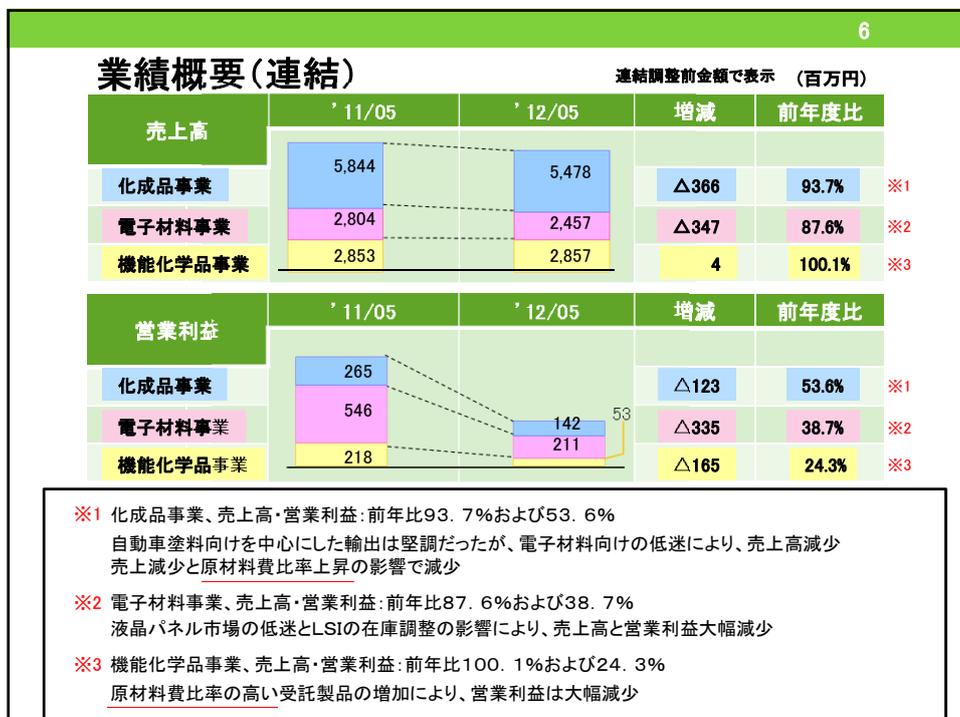
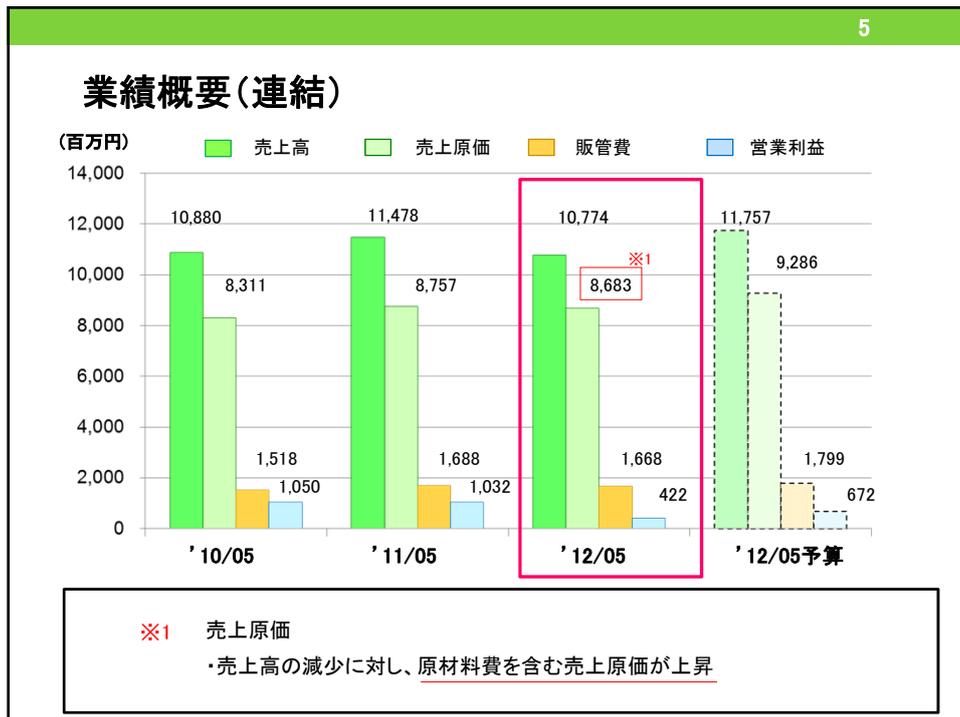
4

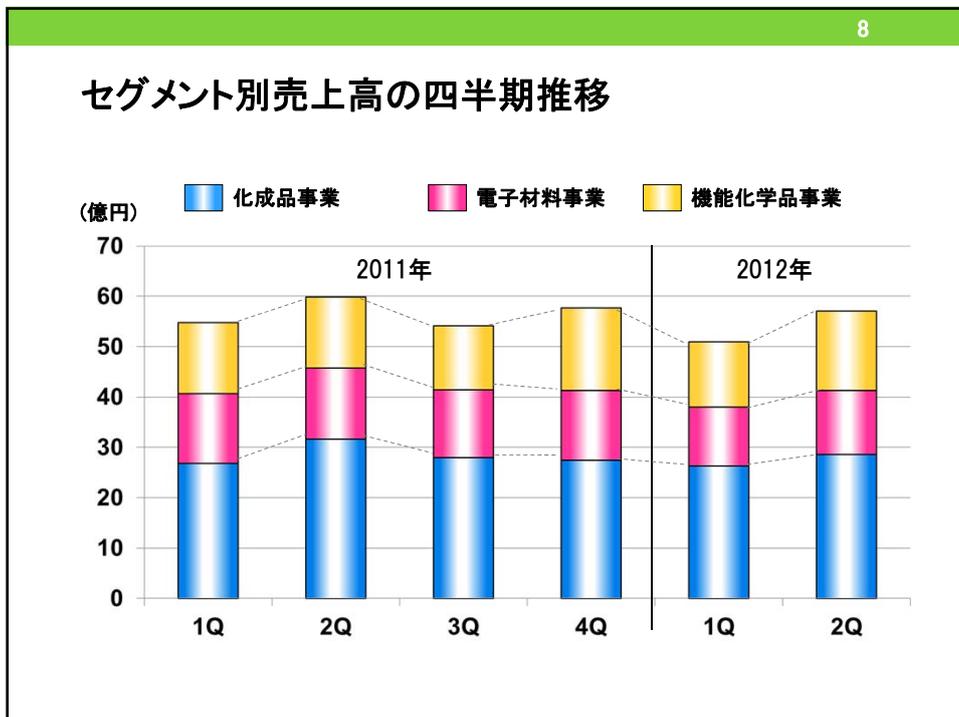
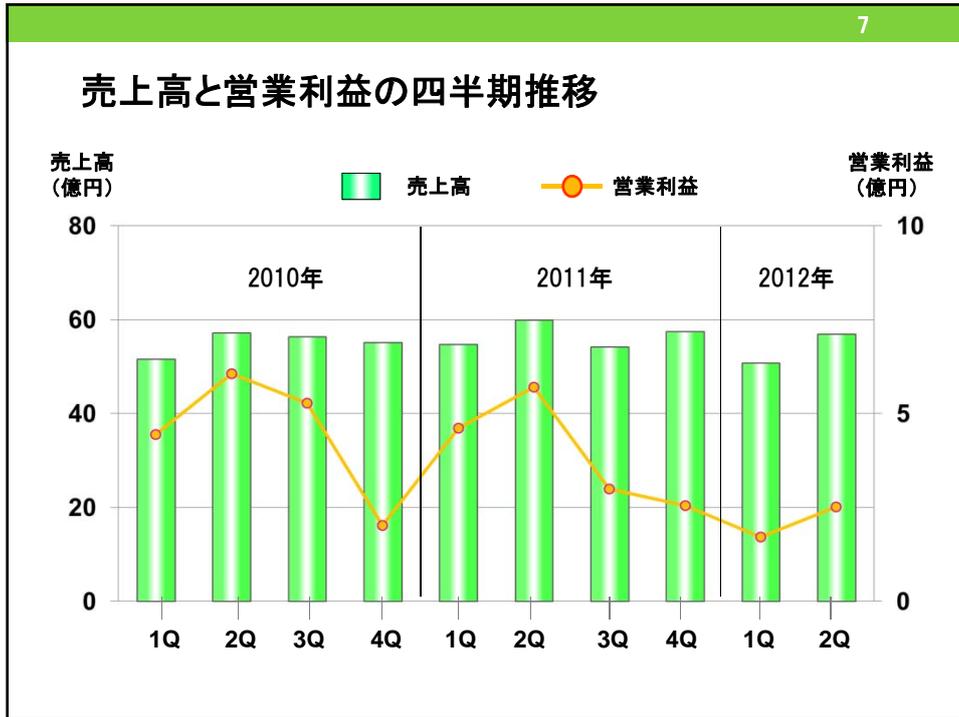
業績概要(連結)

(百万円)

	'11/05	'12/05	増減	前年比	
売上高	11,478	10,774	△704	94%	※1
営業利益	1,032	422	△610	41%	※2
経常利益	1,041	450	△591	43%	
当期純利益	560	225	△335	40%	※3

- ※1 売上高:前年比94%
 ・国内需要の低迷と欧州債務危機の懸念による世界経済の需要鈍化により、減少
- ※2 営業利益、経常利益:前年比41%および43%
 ・売上高減少に加え、原材料費比率の上昇等の影響で、大幅減少
- ※3 当期純利益:前年比40%
 ・有価証券の評価損により、減少





2012年11月期第2四半期 業績まとめ

1. 売上高
国内需要の低迷と欧州債務危機の懸念による世界経済の需要鈍化により、売上高は減少
2. 営業利益
売上高減少に加え、原材料費比率の上昇等の影響で、大幅減少

II. 2012年11月期連結業績予想

11

2012年11月期業績予想概要(連結)

	'11/11 (実績)	'12/11 (修正予想)			(百万円)
			増減	前年比	<参考資料> '12/11 (当初予想)
売上高	22,655	22,182	△473	97.9%	23,837
営業利益	1,588	830	△758	52.3%	1,251
経常利益	1,655	899	△755	54.3%	1,324
当期純利益	808	487	△321	60.3%	795

原材料の推移と需要動向等を踏まえて下期予算の見直しを実施。

12

化成品事業<実績と予想>

事業方針 持続成長のための安定収益基盤事業

**推移
要因**

<上期>

自動車塗料向けを中心とした輸出は堅調、電子材料
向けの低迷により売上高減少

<下期>

引き続き輸出は順調に推移を見込む、電子材料
向けは穏やかな回復と予想



自動車塗料



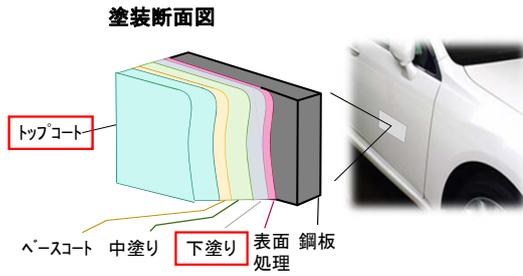
パソコン

**実績
・
予想**



自動車塗料用「4-HBA」新設備の状況

- ・4月 テスト運転開始
- ・品質確認を行った後、本生産に移行



4-HBAは、自動車用塗料の重要材料
酒田工場へ2,500トン/年能力の製造設備を建設(投資額:20億円)

電子材料事業<実績と予想>

事業方針 安定した高収益性確保のための事業

推移要因

<上期>
液晶パネルの低迷と半導体の在庫調整の影響で販売数量減少

<下期>
液晶パネルと半導体の緩やかな回復により、売上増を予想



実績・予想



機能化学品事業<実績と予想>

事業方針 次期成長分野育成ための事業

推移要因

<上期>
各製品で増減はあるが、前年度並みの売上高
原材料費比率の高い中間体が増加

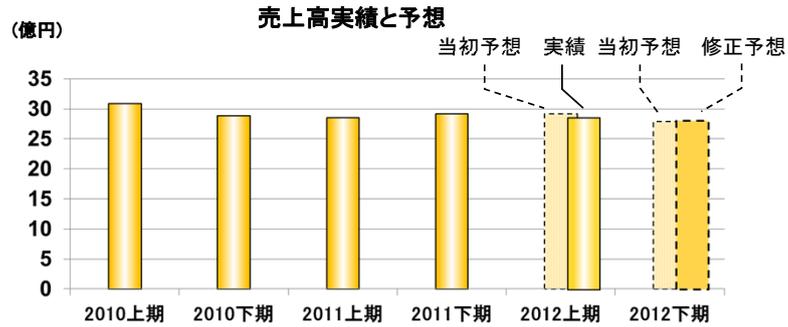
<下期>
現状維持を予想



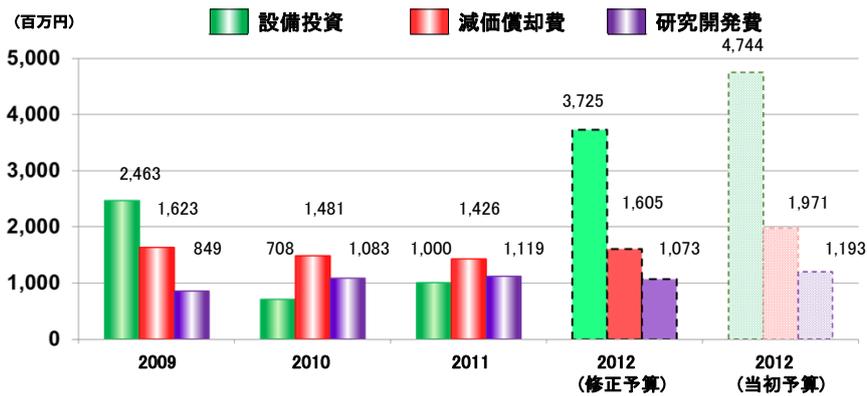
ヘアースタyling剤用
ポリマー

医薬中間体

実績・予想



設備投資・減価償却・研究開発費



主な設備投資案件(2012/11月期)

- ・金沢工場 アクリル酸エステル製造設備(化成品事業生産集約対応)
- ・酒田工場 新規製造設備建設(主な設備投資は、4-HBA製造設備)
- ・研究所 分析・機能評価機器、試作機器等

一株当たり配当金

2012年度 年間配当 9円に見直し
(中間配当4円、期末配当5円)



利益配分に関する基本方針

配当額:業績や事業計画に備えた内部留保の充実等を勘案してバランスをとりつつ決定
内部留保:将来につながる新製品、新技術へ向けての研究開発投資や生産能力増強、
合理化や高付加価値化へ向けての設備投資等の原資として活用

III. 成長戦略・中期事業計画

成長戦略の基本軸

選択と集中による持続的な成長力の構築

- ・新製品開発のための技術力の強化
- ・顧客の拡大及びマーケティングの充実
- ・品質・コスト競争力の向上

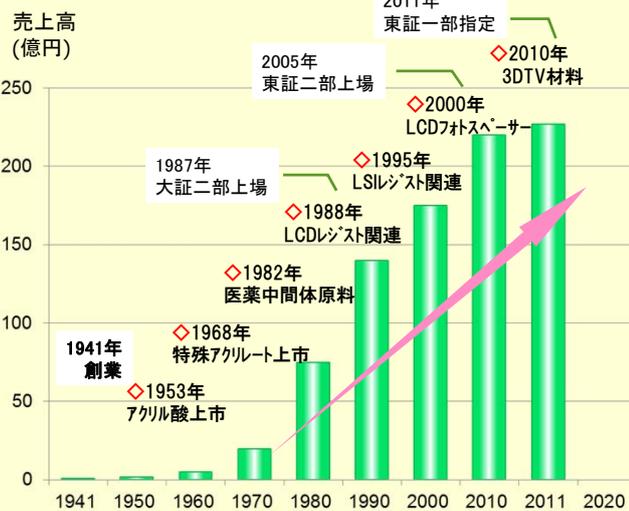
会社の社会的責任の実現と株主価値の向上

- ・安全・環境・コンプライアンスの重視
- ・コーポレートガバナンスの充実
- ・財務体質の強化

目標とする将来像

人・環境と利益を
共有する高収益企業

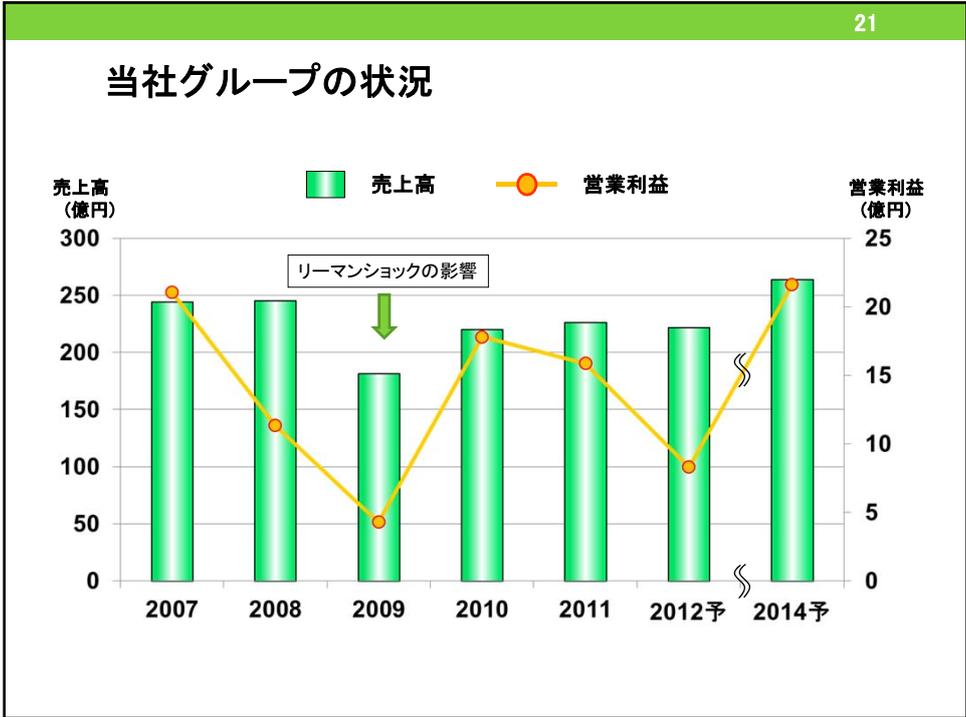
成長戦略の方向性



目標とする将来像

人・環境と利益を
共有する高収益企業

- ・研究開発型企業
(アクリル酸エステル・光硬化技術中心に)
- ・オンリーワン製品の充実
- ・たゆまない技術改良
- ・海外展開



22

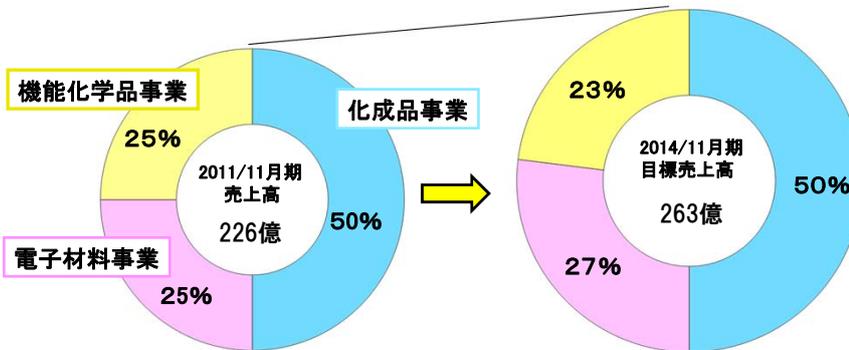
中期事業計画 収益目標(2014/11月期)

(百万円)

	'14/11月期 目標値		
			'11/11月期比
売上高	26,395	22,655	117%
営業利益	2,161	1,588	136%
経常利益	2,237	1,655	135%
当期純利益	1,304	808	161%

23

中期事業計画 売上構成比(2014/11月期)



中期事業計画の方針

- ・化成品事業の市場拡大
- ・電子材料事業の成長による収益の確保
- ・機能化学品事業の育成

24

中期事業計画 <設備投資・減価償却費・研究開発費>

(億円)

	過去3期計 ('09/11 ~ '11/11)	3期累計予想 ('12/11 ~ '14/11)	増減
設備投資	41	90	220%
減価償却費	45	56	124%
研究開発費	30	37	123%

主な設備投資

- ・自動車塗料用「4-HBA」製造設備建設
- ・大阪工場移管に伴う金沢工場・酒田工場への製造設備
- ・パイロットプラント製造設備・分析機器
- ・福利厚生設備

25

中期事業計画 化成品事業

事業環境

- ・国内産業の景気停滞
- ・市場の中心はアジアへ、販売は海外を強化、製品開発は国内で行う

中長期の展開

<事業の強み>

- ・アクリル酸エステルの豊富なラインナップ
- ・アクリル酸エステル製造技術の研鑽

海外市場への拡販強化 (4-HBA等)
製造拠点の集約・プロセス改善
用途の多様化

競争力のある
製品をより強く

基盤事業
としての強化

新製品開発 (V#1000 V#802 STAR等)
新規製造プロセスへ

用途開拓

26

中期事業計画 電子材料事業

事業環境

- ・液晶パネル、半導体を用いたデバイス生産は
韓国、台湾、中国が中心 材料の生産は国内で行う
- ・光(UV)硬化プロセスがキーポイント
- ・市況による変動と短い技術サイクル

中長期の展開

<事業の強み>

- ・光硬化プロセスのキー材料であるアクリル酸エステル、ポリマーの
開発から生産を一貫して行える
- ・高度な品質管理実績

海外展開強化
マーケティング
技術サポート
他社との差別化

量的拡大

安定した
高収益確保

次世代材料開発

高精細PS材料・絶縁膜材料
3DTV材料・次世代レジスト材料

市場をリード
する材料

27

中期事業計画 機能化学品事業

事業環境

- ・化粧品市場はファッションの多様化とアジア圏の購買力向上
- ・酢酸エステル・特殊溶剤は高機能溶剤用途にシフト

中長期の展開

<事業の強み>

- ・機能性アクリルポリマーの設計技術
- ・精密有機合成技術と精製技術

化粧品基材・医薬中間体分野の市場掘り起し	強みを生かした分野展開	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">次期成長分野開拓</div>
新規機能材料の開発 (防曇剤等)	新規市場開拓	

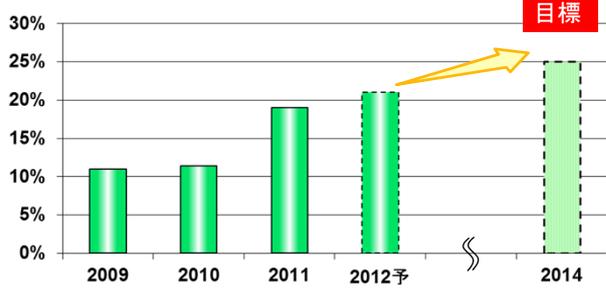
28

海外展開



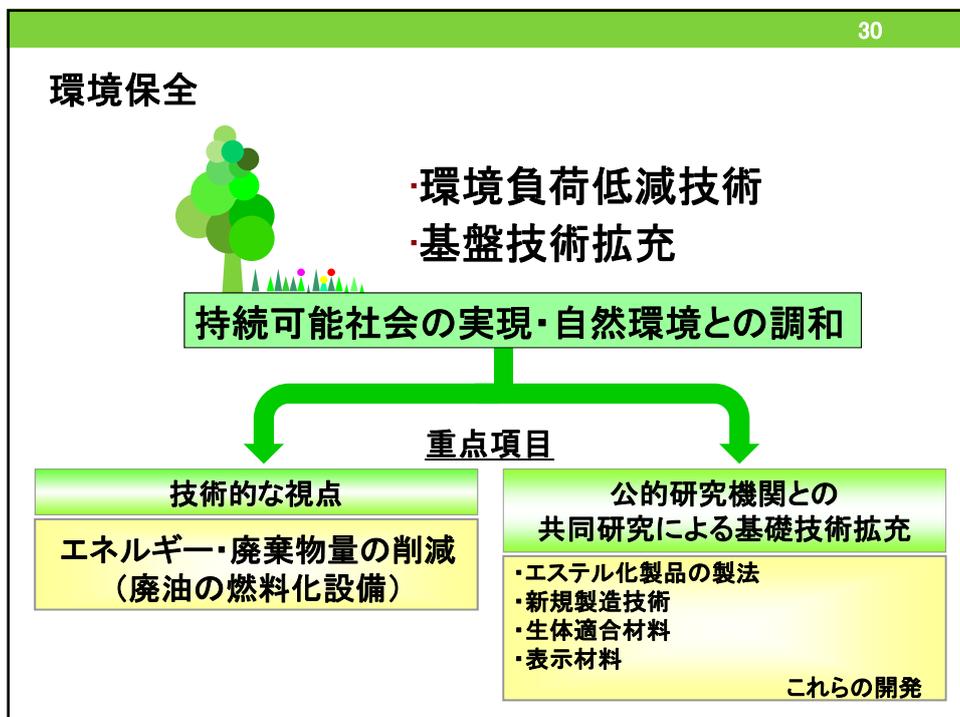
上海事務所

海外売上高比率



年次	比率 (%)
2009	11
2010	11
2011	19
2012 予	21
2014 目標	25

- ・上海事務所2012年3月開設
- ・海外販売強化の拠点として3事業製品のマーケティングを推進
- ・競争力のある製品の販売を進め、2014年度には海外売上高比率25%を目指す



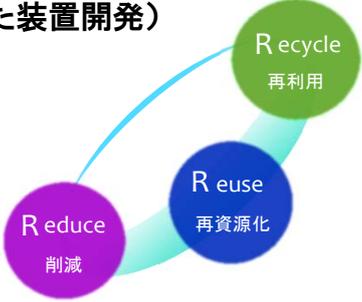
31

環境保全（廃棄物の資源化をめざした装置開発）



<開発装置のポイント>

- ・廃棄物を副生油として再燃料化
- ・副生油を独自開発のボイラーの燃料に使用し、蒸気の活用
- ・有価金属の回収
- ・大阪有機化学工業、新興ブランテック、高尾鉄工所との共同開発による特許化(特許公報:2008-051431)



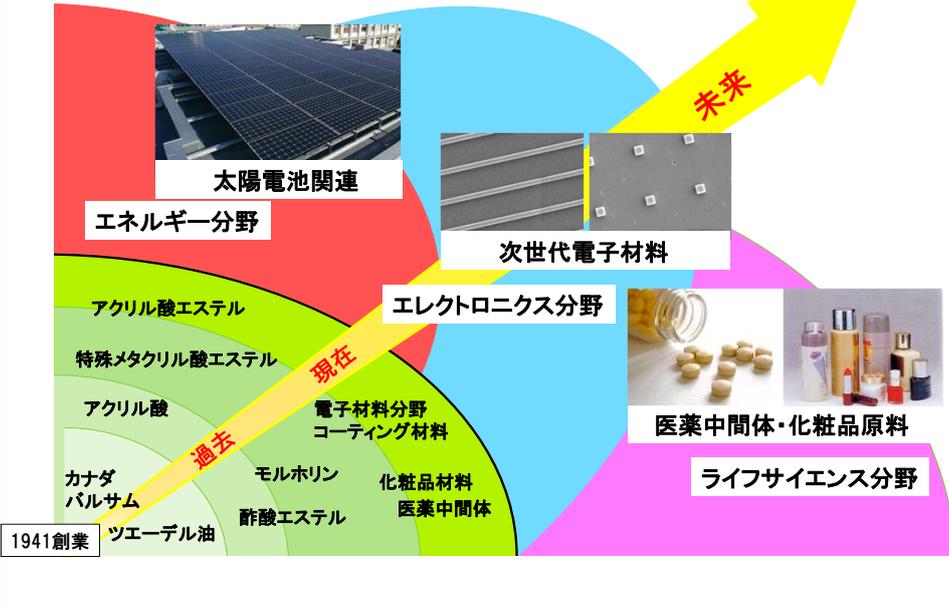
省エネルギーの有効性と技術が評価されダブル受賞

- 第32回日本機械工業連合選定
日本機械工業連合会長賞を受賞
- 社団法人大阪工研協会選定
平成24年度工業技術賞を受賞




32

新事業・新技術の創出



1941創業



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

のびゆく力、未来へ

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。

ご参考資料1 比較連結貸借対照表

項目	'11/11末	'12/05末	増減	備考
資産合計	29,476	29,630	154	
流動資産	14,989	14,740	△249	現金及び預金の減少 有価証券の増加
有形固定資産	10,029	10,368	339	建設仮勘定の増加
投資その他の資産	4,311	4,214	△97	投資有価証券の増加 長期預金の減少
負債合計	8,230	8,459	229	
流動負債	5,769	6,337	568	支払手形及び買掛金の増加 未払金の増加
固定負債	2,460	2,087	△373	長期借入金の減少
純資産合計	21,245	21,205	△40	
少数株主持分	185	193	8	
負債純資産合計	29,476	29,630	154	

ご参考資料2 キャッシュ・フロー(連結)

項目	'11/05末	'12/05末	増減	備考
営業活動によるキャッシュフロー	988	1,120	132	税金等調整前四半期純利益の減少 法人税等の支払額の減少
投資活動によるキャッシュフロー	△2,269	△1,407	862	有価証券及び投資有価証券の取得による支出の増加 定期貯金の預入による支出の減少
財務活動によるキャッシュフロー	926	△725	△1,651	長期借入による収入 株式の発行による収入 自己株式の借入による支出
現金及び現金同等物の増加額	△355	△1,013	△658	
現金及び現金同等物の期首残高	3,711	4,678	967	
現金及び現金同等物の期末残高	3,355	3,665	310	

ご参考資料3 化成品事業の新製品の特徴

新規アクリルモノマーの特徴

商品名	コーティング後の表面硬さ(鉛筆硬度)	耐擦傷性(ステールウールテスト)	樹脂フィルムコーティング時の収縮性	密着性(基準目試験)	特徴	用途
V#802 (TriPEA)	3H (9H) *	○	比較的小さな収縮	高密着	高密着性、高硬度なコーティング性	フィルムコート剤 LCD構成材料
V#1000	H~2H (3H~4H) *	△~○	小さな収縮	従来品と同等	低収縮かつ柔軟なコーティング性 高反応性(UV硬化時の省エネルギー化)	
STAR-501	2~3H (7H) *	○	比較的小さな収縮	高密着	高密着、耐破断性かつ高反応性(UV硬化時の省エネルギー化)	
DPHA (従来品)	2~3H (7H) *	○	大きな収縮	—	—	—

※()内は、ガラス基板のデータ